

希望をもって住み続けることのできる国東市実現のために

国東市長 野田侃生



新年あけましておめでとうございます。
皆様方には清々しく新春をお迎

えのことと心からお慶び申し上げます。

4町合併から早くも3年が経過しようとしておりますが、この間、市民並びに市議会の皆様方には、市政に対し多大なるご理解とご協力を賜り、深く感謝するとともに厚くお礼を申し上げます。

現在国東市では第1次国東市総合計画に基づき、平成20年度から3カ年を対象として具体的な実施計画を立て、堅実に実行努力を続けております。また、地方分権や社会情勢の変化に対応できる効率的な行財政運営を目指し「国東市行

財政改革大綱」、「国東市集中改革プラン」を策定し、歳入確保と歳出の抑制、組織機構や事務事業の見直し、職員定数の抑制など、抜本的な行財政改革に全力で取り組んでいるところです。

しかし、今後増加傾向にある扶助費や依然高い水準にある公債費等を考えますと、厳しい財政状況に変わりはありません。さらに昨年より、世界的な経済不況の波が押し寄せ、国内においては雇用問題を中心非常に深刻な状況となっております。この経済・雇用不安の中で、民間企業だけでなく地方公共団体においても、今何をすべきか、何が出来るのかを自問自答し、地域の活性化策と合わせて財政危機からの脱却の道を探るなど、これまで以上の厳しい行政運営を迫られております。

このような中ではありますが、昨年は、市内企業との連携を図るための「国東市企業支援連絡会の

設置」、42年ぶりとなる国体開催による「市民相互の交流と一体感の創出」、第1次産業の活性化が期待される「農業への企業参入」、これからの国東市の未来を担う若者の育成を目的とした「APU(立命館アジア太平洋大学)との友好交流協定締結」など、徐々に明るい兆しも見えております。

本年は、4月から運用開始する福祉施設の民営化や観光交流施設への指定管理の導入など、民間活力の有効活用により歳出の抑制を図るとともに、職員の意識改革をベースとして、事務処理の迅速化や職員相互間でのチェック機能の強化を目的としたグループ制導入による組織改革を行うこととしております。その他にも、市民病院の医師不足への対応策など、少子高齢化の進行する中で市民の皆さんが将来に希望をもって国東市に住み続けることができる実効性のある施策を、選択と集中により積極

的に推進してまいりたいと考えております。

特に今後は、全国的な地方分権の進捗とともに、道州制に向けた論議が各方面で活発となるものと思われませんが、市民が主役の根本原則を忘れることなく、皆様方の先頭に立って、よりよい方向へ進むよう鋭意努力してまいる所存であります。

輝かしい平成21年の年頭にあたり、本年が国東市、そして市民の皆様にとりましてすばらしい年になりますよう心よりご祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

迎春

市役所

市長 野田 侃生

副市長 高木 正史

教育長 吉井 孝光

ほか市役所職員一同